

## インド準備銀行 政策金利を据え置き

### (1) 政策金利据え置き決定と市場の反応

インド準備銀行(RBI)(中央銀行)は8月4日の金融政策決定会合において、政策金利であるレポレートの据置き(現行7.25%)を決定しました。

RBIは声明で、「金融緩和スタンスを維持しながらも現時点では政策金利を据え置くのが妥当」とし、今後については以下の点に関する見極めが重要であると指摘しました。RBIは前回6月2日の会合で0.25%の追加利下げを実施しており、今回は据置きましたが、先行きに関してはインフレ見通しや銀行の貸出金利の低下度合いといったデータ次第では追加緩和を行う余地を残しました。

尚、来年1月時点のインフレ目標6%に対するリスクに関しては、前回の声明で「上振れ方向に傾いている」としていたものを今回は「ほぼ均衡」しているに変更しています。また経済成長見通しについては「徐々に改善している」とし、15/16年度の目標値7.6%を据え置きました。

政策金利据え置きが大方の予想通りであったこと等から、株式、債券、為替市場に大きな変動は見られませんでした。

次回の金融政策決定会合(政策見通し)は9月29日に予定されています。

<RBIが見極めが重要とする項目>

- ① RBIによる前倒しの政策(利下げ)が、銀行の貸出姿勢(貸出レート)に波及する度合い
- ② 食料価格の動向、特にモンスーン(6~9月の降雨量)の影響
- ③ 供給のボトルネック解消、ばらまき型から投資促進型への政策転換・推進等、政府の政策努力の進捗度
- ④ 米金利政策の正常化の兆し(利上げの実施等)

### (2) 今後の金融政策や金利動向に関する見通し

今後の金融政策は、モンスーンの影響、インフレ、米金融政策の動向待ちとなりますが、政府が財政規律を維持し、またインフレ圧力が引き続き抑えられれば、3~6か月以内に更なる追加利下げの余地が生じるものと考えます。その場合は、年内にもう一度の追加利下げがあると予想しています。

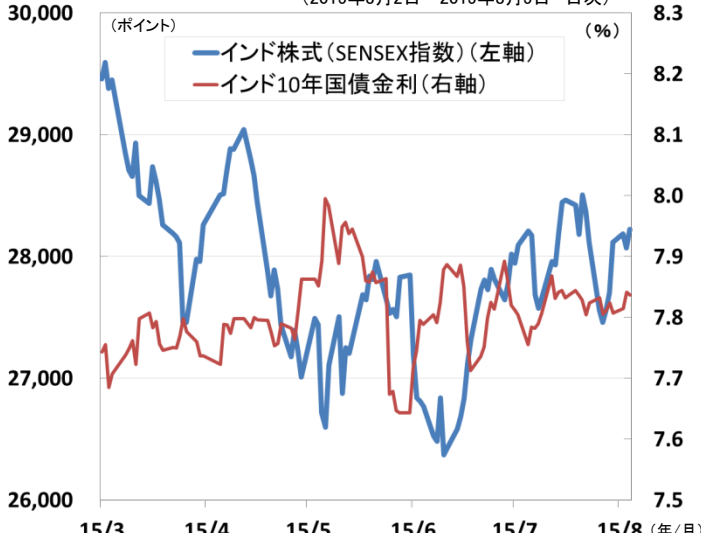
インフレ動向がはっきりするまでは、金利は当面レンジ(一定の値幅の範囲)内で推移するものと予想していますが、下半期に向けては国債の需給バランスの改善等を通じて金利は低下方向に向かうものとみています。

加えて、FPI(外国機関投資家)に対する投資枠の上限引き上げ(※)があれば、金利の更なる低下につながるものと考えます。

(※)インド国内市場の債券に投資する外国機関投資家に対しては、外国機関投資家資格(FPI)の取得が求められ、また投資枠が設けられています。投資枠の上限引き上げがあれば、債券市場への資金流入が増加し、金利の低下を促す可能性もあります。

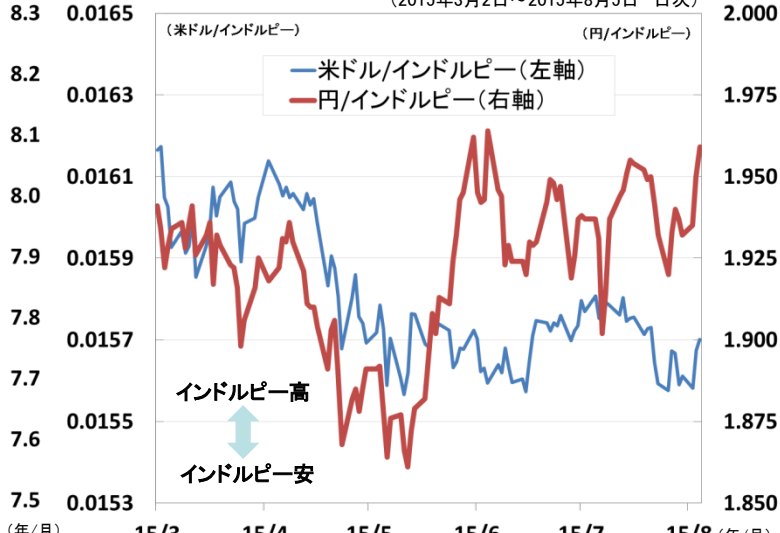
【図表1】インド株式とインド10年国債金利の推移

(2015年3月2日~2015年8月5日 日次)



【図表2】インドルピー(対円、対米ドル)の推移

(2015年3月2日~2015年8月5日 日次)



出所:図表1、2はブルームバーグデータを基にニッセイアセットマネジメントが作成

当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。 <審査確認番号H27-TB62>